

【病院イベント 2025.8.6~7 高校生医療体験】

名前：川村裕太、藤山 翔、高坂 泰平

【感想】

8月6日と7日の2日間、高校生医療体験が行われ、稜北病院リハビリテーション部門には22名の高校生が参加してくださいました。内容は昨年と同じく、片麻痺体験、車いす体験、嚥下やコミュニケーションに関する実技や講義を行いました。今年は、昨年の参加者から「リハビリ室やリハビリの様子を見学してみたい」という声が多く寄せられたことを受け、新たにリハビリ見学を取り入れました。

見学を終えた高校生からは、「実際の現場を見ることで仕事のイメージが湧いた」「患者さんとスタッフの関わり方を知ることができ、勉強になった」などの感想をいただきました。片麻痺体験や車いす体験では、手足の動かしにくさや重さ、車いすでのスピード感などを実際に体感していただくことで、患者さんの気持ちを少しでも理解し、寄り添う心やお手伝いの方法を考えるきっかけになったのではないかと思います。

参加した私たちスタッフ3名も、高校生の熱心に学ぶ姿勢に刺激を受け、今後の励みとなりました。稜北病院リハビリテーション部では、これからの医療を担う人材の育成にも力を入れています。今回の体験が、参加者の皆さんにとって将来を考えるきっかけのひとつとなれば嬉しく思います。参加してくださった皆さん、本当にお疲れさまでした。

作業療法士 藤山 翔

今回、私は高校生医療体験のスタッフとして初めて参加しました。片麻痺体験や車椅子体験、コミュニケーション体験など参加された皆さんは真剣に取り組んでおり、将来、リハビリ職に就きたいという熱意をすごく感じました。私自身も高校生と交流しとても刺激になり、この言語聴覚士としてやりがいをもっと知って欲しいという気持ちになりました。この医療体験に参加された方々が合格しリハビリ職として働けることを楽しみにしています。

言語聴覚士 高坂 泰平

今回初めて高校生医療体験のリハビリ部門担当スタッフとして参加させていただきました。高校生のキラキラとした眼差しとフレッシュな反応がとても印象的でした。既に養成校へ進学を決めている学生や今後の進路に繋がる有意義な体験となったという前向きな意見が多数あり、今回関わることが出来てとても良かったと感じました。最後には理学療法士になるにはどうしたらよいかという具体的な質問もあり、高校生から将来のビジョンを前向きに考えていることに良い刺激を受け、自分もさらに誇らしい仕事ができるよう頑張らなければいけないと感じました。

理学療法士 川村裕太

